内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2002年12月、2003年1月）

◎内海総局長から

世界情報社会サミットへの関心がますます高まり、第2回準備会合には、セネガルとルーマニアの大統領が出席してくれました。ゼロから始まったサミットの準備がここまで進み、世界中で、何十万人もの人たちがこのことを考え、議論してくれていると思うと、身が引き締まる思いがします。人類が情報社会に向けて突進していることを痛感させられる毎日です。大変なときにITU事務総局長になったものです。

◎12～1月の事務総局長の主な動向

12月13～16日　世界情報社会サミット（WSIS）準備会合議長ドラフティンググループ（グリオン、スイス）

今年年末に開催される世界情報社会サミット(WSIS)に向けて、2月17日からサミット準備会合第2回会合（Prepcom2）がジュネーブで開催されます。今回の準備会合では、サミットで採択する宣言や行動計画の素案の取りまとめ、ならびにこの素案をサミットまでに確固たる合意文書案にするためのメカニズムを策定することが期待されています。この議論のたたき台となる準備会合議長ノンペーパーを作成するために、世界各地域の専門家に集まってもらい、日本からは今川阪大助教授が出席して、4日間の合宿形式のドラフティンググループが開催されました。

作成されたノンペーパーでは、情報社会における人権、ガバナンス、セキュリティー、文化、人材開発など10の「原則」案をまとめ、世界各地の村落を2010年までに、また世界の小学校を2015年までにネットワークに接続すべき等の具体的な行動案も含まれています。このノンペーパーと各地域準備会合出力文書を基に、Prepcom2で真剣な議論が行われることを期待しています。

1月9日　ITUマネジメント見直しのための専門家会合（ジュネーブ）

昨年のマラケシュITU全権委員会議で採択された決議に基づいて、ITUの財政管理組織、文書の印刷配布および出版に関する業務、一元化できる各局の共通サービス等を見直すために、世界の各地域を代表する5人による専門家会合が設置されました。米国、ポルトガル、ロシア、モロッコ、日本（山田APT管理委員会議長）で構成されています。今年の理事会に向けて、具体的な見直し案が提出されることが期待されています。

1月13～15日　世界情報社会サミット（WSIS）アジア太平洋地域会合（東京）

日本政府の主催で、アジア太平洋地域のWSISに向けた意見を取りまとめる「アジア太平洋地域準備会合」が開催され、私からはキーノートスピーチの中で、デジタル・デバイドやサイバースペースに関して国際的取り組みの必要性などを説明しました。

会議は、小泉首相、片山総務大臣をはじめ各国大臣が参加して政治的な注目を集めるとともに、民間セクターやNGOにもオープンにしたことで多くの関係者の注目を集めました。この会議で採択されたWSIS東京宣言は、政府、民間、NGOらがそれぞれ同じ席に着いて、それぞれの意見を対等に出し合いドラフティングされた宣言です。WSIS東京宣言は、多言語、多文化、島嶼国などアジア・太平洋地域の特徴に基づいているとともに、新しく「ユビキタス・ネットワーク」の重要性も打ち出しており、WSIS準備プロセスに大きく貢献するものと期待しています。

http://www.itu.int/wsis/preparatory/regional/tokyo.html

1月27～31日　ITU無線アドバイザリーグループ（RAG）（ジュネーブ）

ITU無線通信局の主要な活動や財政事項について議論するITU無線通信アドバイザリーグループが開催されました。昨年のITU全権委員会議において採択された財政計画に基づいて、ITU無線通信局においても経費削減の必要性を考慮しつつ、今年6月に開催されるITU世界無線通信会議への準備作業の効率化などが議論されました。

1月29～31日　世界情報社会サミット（WSIS）ラテンアメリカ・カリブ諸国地域準備会合（ババロ、ドミニカ共和国）

ドミニカ共和国主催で、ラテンアメリカ・カリブ諸国地域のWSISに向けた意見を取りまとめる「ラテンアメリカ・カリブ諸国地域準備会合」が開催されました。私はドミニカ共和国大統領とともにオープニングスピーチを行いました。

WSISで採択される宣言や行動計画を少しでも自国に有利にしておこうとするためなのか、将来の情報社会の構築に向けて少しでもヘゲモニーをとろうとしているのか、政府間で激しい議論が行われ、同会合の宣言文書が採択されたのは、最終日翌日の午前4時ごろでした。

http://www.itu.int/wsis/preparatory/regional/bavaro.html